大谷　翔平（２０２１年）

２０２１年２月９日に年俸調停を回避してＺ年総額８５０万ドルで契約合意したことが公式発表された。ツーズンでは４月４日の対ホワイトソックス戦では、ＭＬＢ移籍後初となる「２番・投手」で先発出場。打者とＬて初回に先制の２号本塁打を放った。投手としても球速１６３ｋｍ／ｈを計測するなど好投したが、４回途中３失点で負傷降板し３年ぶりの勝利とはならなかった。４月９日のプルージェイズ戦で、松井秀喜の１３９３打席を大幅に塗り替え、日本人最速となる９９ワ打席でのＭＬＢ通算５０本塁打を達成。４月２１日のテキサヌ・レンジャーズ戦ではＮＰＢ／ＭＬＢ通算１００本塁打を達成した。４月２４日の対マストロズ戦でＭＬＢでは初となる左翼手の守備に就りた（交代させる野手がいなかったため急遽ＤＨを解除して起用）。同２６日のレンジャーズ戦では、５回９奪三振４失点で、３シーズンぷりに勝利投手となった。５月１１日のアストロズ戦では２番・投手として７回１０奪三振１失点の快投後、右翼に就いて試合終了までプレーを続けた。同１７日のインディアンス戦に１３号本塁打を放ち、日本人ナジャーリーガー初の両リーグ本塁打王単独トッブに躍り出た。６月４日、マリナーズ戦に２番投手で投打同時出場を果たすと６回を４安打２失点で４月２５日以来３９日ぶりのシーズン２勝目を挙げた。この試合では、ＮＬＢ２０試合目の登板で初の無四球を達成し、さらには１０奪三振を記録した。１１日に敵地で行われたダイヤもンドバックス戦では、２番・投手で、ＭＬＢ移籍後初の交流戦先発登板を果たした。ナ・リーグの球場で投手が１番から４番よでの打順に入るのは初となった。翌１６日のアスレチックス戦ではシーズン１０個目の盗塁を成功させ、２年ぶりの２桁１０盗塁に到達した。

１８日、オールスターゲームのホームテンダービーに出場することを表明した。日本人の出場は史上初であるのに加え、投手としてキャリアをスタートさせた選手の出場も史上初となる。

２番・ＤＨで先発出場した同日のタイガース戦で、第３打席に２０号２点本塁打を放ち、２０１８年以来３年ぶりのシーズソ２０号本塁打に到達した。チーム７０試合目（打者出場６５試合目）での２０号到達は、松井秀喜が２００７年に樹立した、テーム１０６試合目（打者出場９３試合目）での２０号到達の日本人選手最速記録を大幅に更新した。その後、第５打席にも２１号ソロ本塁打を放ち、２０１９年以来２年ぶりの１試合２本塁打を記録した。同１９日、本拠地アメハイムでのタイガース戦に２番・ＤＨで先発出場。第２打席に２試合連発、ＭしＢ１年目の２０１８年に並ぶ２２号本塁打を放った。同２０日、本拠地でのタイカース戦に２番・ＤＨでスタメン出場。第３打席に３試合連続の２ヨ号本塁打を放った。自身のプロ最多本塁打数を更新した。同２３日、本拠地でのジャイマンツ戦に２番・投手で先発出場。これにより、ア・リーグのチームがＤＨを解除し、ナ・リーグのチームがＤＨを使用するという史上初の珍事が生じた。結果、この週（６月１４日　－　２０日）で７試合に出場し、打率．２９６（２７打数８安打）、６本塁打、ｑ打点、１盗塁を記録。投げてほ６回１失点、奪三振５でシーズン３勝目を挙げ、翌日の２１日には２０１８年４月、９月に続いて、３年ぶりＥ度目となるア・リーグのプレイヤー・オブ・ザ・ウィークを受賞Ｌた。

同２７日、ＭＬＢオールスターゲームのワァン投票の１次結果を発表し、ア・リーグ指名打者部門で１９ｂ万１，５１１票を集めてトップ通過した。７月１日にＭＬＢオールスターゲームファシ投票の最終結果が発表され、ア・リーグ指名打者部門で全体の６３％を集める圧倒的な得票率でＭＬＢオールスターゲームに初選出された。同２Ｂ日には第２５号本塁打を放ち、アジア人では歴代２位であった秋信守（大韓民国出身。ＭＪＢ通算本塁打数では松井秀喜を上回ってアジア人歴代１位）の最多記録２４を抜りた。

６月は２５試合に出場し、打率．３０ｑ、１３本塁打、出塁率．４２３、長打率  
．８８９、ＯＰＳ１．３１２を記録し、７月２日にア・リーグ野手部門で初の月間ＭＶＰに選出された。同２日のボルテモア・オリオールズ戦で第２打席で右翼席へ２９号ソロ、第３打席で左翼席へ３０号２点本塁打を放ち、ＮＰＢ／ＭＬＢ通じて自身初となる３０本塁打に両リーグ最速で到達。日本人選手としては２００４年の松井秀喜が３１本塁打を記録して以来、１ワ年ぶりの快挙となった。また、オールスターゲーム前の本塁打数として２０１９年にマイク・トラワトが記録した２８本を抜き、ユンゼルスの球団新記録となった。なお、ベーブ・ルースが先発投手として１試合以上出場Ｊたシーズンで記録した最多本塁打は１９１９年の２９本であったことから、アメリカ合衆国の記者ジャック・ペアは「二刀流選手として大谷はベーブ・ルース以上」と述べたという。

７月４日、ニューヨーク・ポスト紙は、アメリカン・リーグの前半戦ＭＵＰに大谷を選出した。

同４日本拠地で行なわれたオリオールズ戦に「２番・ＤＨ」で先発出場。第２打席で第３１号本塁打を放ち、２００４年に松井秀喜（ニューヨーク・ヤンキース所属）が記録した日本人選手として最多のシーズン本塁打数「３１」（アヅア人としても最多）こ並んだ。同４日にオールスターゲームの選手間投票などで選ばれた投手と控え野手が発表され、ファン投票選出のア・リーグＤＨ部門に続き、同先発投手部門でも選出され、史上初ぬて投打二刀流で選出された。６日には、シーズン２度目となるプレイヤー・オブ・ザ・ウィーク（６月２８日　－　７月４日）を受賞した。打者として６試合に出場し、打率．２８６、６本塁打、８打点、１盗塁、ＯＰＳ１．５４３を記録。同６日本拠地アナハイムでのしッドソックス戦に「２番・投手」で投打同時出場。シーズン最長タイめ７回、８９球を投げ５安打２失点でＮＰＢ／ＭＬＢ通算５０勝目となる４勝目を挙げた。

同７日には本拠地でのレッドツックス戦に「２番・ＤＨ」で出場し、３試合ぶりとなる第３２号本塁打を放った。松井秀喜にする日本人選手最多本塁打記録であった３１本をシーズン前半戦のうちに更新し、日本人では単独最多となった（アジマ人としても最多）。さらに、当時点ではＭＬＢ両リーグ内で最多の本塁打数であり、またオールスターゲーム前に３２本塁打以上かつ１２盗塁以上の達成はＭＬＢ史上初の記録でもあった）。同４日の３１本塁打達成時および同７日の３Ｚ本塁打達成時には松井から大谷を絶賛し応援する内容の祝辞を贈らね、大谷は「（松井を）子どもの頃からすごい見ていたので、光栄だなと思います。」「素直に嬉しいですし、（松井が）わざわざコメソトしていただけるのも嬉しいです。まだまだ打てるように期待に応えられるように頑張いたい。」などと語った。

最終的にオールスター前に３３本のホームランを放った。ニれはアメリカ合衆国外出身者のオールスター前のホームテン数ではサミー・ソーサ（ドミニカ出身）に並びトップタイの記録である。同１０日、米スポーン界で目覚ましい活躍をした選手や優れたプレーなどに贈られ、スポーツ界のグラミー賞またはアカデミー賞と言われるＥＺＰＹ賞の「ベストＭＬＢ選手」部門に日本人選手で初めて選出された。

７月１２日、翌日に控えるオールスターゲームにアメリカンリーグ側「１番指名打者」で先発出場よると同時に先発投手としても出場することが発表された。日本人選手がオールスターゲームで先発登板するのは１９９５年の野茂英雄（ロザンゼルス・ドジャース所属）以来、２６年ぶり２人目であった。同日に開催されたホームランダービーでは第１ラウンドでウシントン・ナショナルズ所属のフアン・ソトと２度の延長戦にもつれる熱戦を繰り広げるも、敗退となった。翌１３日に開催されたオールスターゲームでは、１回表に先頭打者としてメショナルズのマックス・シャーザーと対決してＮＬＢオールスターゲーム初打席に立ったが、二塁ゴロとなった。１回裏には先発投手としてＭＬＢオールスターゲーム初登板を果たし、三者凡退に抑えた。２回裏にはホワインックスのランス・リンが登板したため１回表限りの登板となった。打者としてはそのまま続投し、３回表に２打席目を迎えてブルワーズのコービン・バーンズと対決したが、初球を叩りて一塁ゴロとなった。５回表にレッドシックスのＪ．Ｄ．マルティネスを代打に送られた。２回表にブルージェイズのマーカス・セミニンが先制点を記録し、最終的にアメリカンリーグが５－２でナショナルリーグを下したことから、大谷は勝利投手となった。こめオールスターゲームで大谷が使用したハンドグローブ、スパイクシューズ、フットガードはアメリカ野球殿堂入りした。

同１８日、本拠地で開催されたマリナーズ戦、５試合ぶりに後半戦初となろ３４号本塁打を放った。ク月１９日のアスレチックス戦では「２番・投手」の投打同時出場で後半戦初登板し、ｂ回を３安打無失点、８奪三振１四球の快投を見せるも勝敗は付かなかった。また、打っては４打数１安打で二塁打を放ち、７回からは右翼の守備に就き、８回の守備で退いた。同２６日本拠地でのコロテド・ロッキーズ戦に「２番・投手」で投打二刀流出場し７回被安打５、奪三振５、失点１で１打点も記録し、ＭＬＢ自己最多となる５勝目を挙げた。

８月２日、２カ月連続でアメリカンリーグの野手部門でプレイヤー・オブ・ザ・マンスを受賞した。日本人野手の複数回受賞は史上初の快挙である。打者とＬて２３試合出場でリーグトップタイの９本塁打を放ち、投手として３試合登板し、２勝Ｏ敗、防御率１．３５。２０イニングを投ばて１７奪三振を記録した。８月１４日の対ヒコーストン・アストロズ戦（エンゼルス・スタジアム）には１番・ＤＨで出場。１回裏にルイス・ガルシマから第３９号本塁打を打ち、１９８２年のレジー・ジャクソンに並ぶ、球団タメ記録の左打者シーズン最多本塁打を記録。同１８日、敵地でのタイガース戦に「１番・投手」で出場。ＭＬＢでの自己最長となろ８回を投げ、被安打６、与四死球０、奪三振８、失点１（自責１）で８勝目を挙げた。打者としても８回の第４打席で４試合ぷりの４０号本塁打を打ち、レジー・ジャクソンの持つ球団左打者のシーズン最多本塁打記録を更新Ｊた。９月３日、レンジャーズ戦で９勝目を挙げた。

９月１５日にタイム誌が「世界て最も影響力のある１００人」を発表し、野球界で唯一選出された。推薦人はヤンキースのレジェンドで、ＭＬＢ通算６９６本塁打を放ったアＬックス・ロドリゲス。

同２４日、３試合で１１四球のアメリカンリーグ新記録を５０年ふりに更新した。また、２０１６年のフライス・ハーパーと並ぶＭＬＢ最多記録と並んだ。同２５日、４試合で１３四球のＭＬＢのタイ記録を達成し、ベーブ・ルースと並んだ。

１０月３日、シーズン最終戦に「１番ＲＨ」で先発。第１打席で１１試合ぶりとなる本塁打を放ち、このＩ本でシーズン１００打点を達成。打者として１３８安打・１００打点・１０３得点、投手として１３０回１／３、１５９奪三振という、ＭＬＢ初となる投打ｂ部門での「１００」を成し遂げた。

後半戦は打撃の調子を落としたことに加えて、一発を恐れた相手チームがら勝負を避けられるニとも多く、本塁打王にはあと一歩及ばなかった。しかし、ＭＬＢでは自身初のて投打の二刀流として怪我なくシーズンを完走し、打者としての最終成績は打率．２５７、４６本塁打、１００打点、０ＰＳ．９６５、２６盗塁、投手としての最終成績はｑ勝２敗、防御率３．１８、１５６奪三振という飛躍のシーズンとなった。

オフの１０月２２日に日本版のフォープス３０アンダー３０の一人に選ばれた。１１月１８日には同年の二刀流での活躍が評価さわ、アメリカン・リーグ最優秀選手（ＭＶＲ）に史上１９人目の満票で選出された。日本出身の選手としては２００１年のイチロー以来史上２度目となる。この年のエンゼルスはホストシーズン進出争いに絡ぬずに負け越したが、ポストシーズン進出を逃したチームからの選出は史上４人目、満票での選出は史上初となった。１１月２３日に自身初めてオールＭＬＢチームのファーストチーム指名打者、そしてセカソドチーム投手に選出された。その他にもシルバースラッガー賞やエドガー・アルティネス賞など数々の表彰を受けた。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』　大谷　翔平